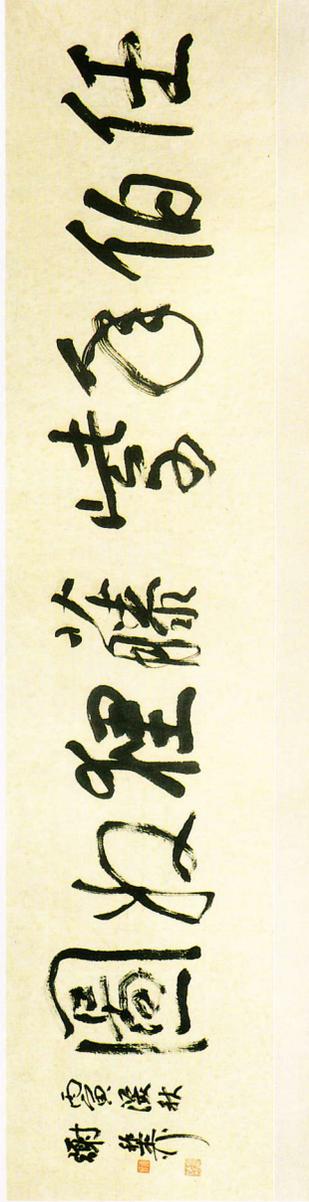


明清の書と絵画

日中国交正常化20周年記念展
江蘇省美術館所蔵

平成4年 4月8日(水)～5月17日(日)



任伯年「紫藤狸奴図」

- 〔開館時間〕 9時～5時(ただし入館は4時30分まで)
- 〔休館日〕 4月12日〔日〕、13日〔月〕、20日〔月〕、27日〔月〕、30日〔木〕
5月6日〔水〕、8日〔金〕、10日〔日〕、11日〔月〕
〔会期中、陳列替をいたします。〕
- 〔前期〕 4月8日〔水〕～26日〔日〕
- 〔後期〕 4月28日〔火〕～5月17日〔日〕
- 〔入館料〕 一般200円〔160円〕／小中学生100円〔80円〕
※〔 〕内は団体20名以上

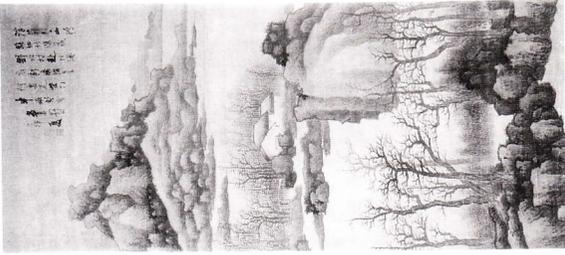
- 〔主催〕 渋谷区立松濤美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
- 〔後援〕 外務省／中国大使館
- 〔協賛〕 花王株式会社

渋谷区立松濤美術館

〒150 渋谷区松濤2-14-14 電話03(3465)9421



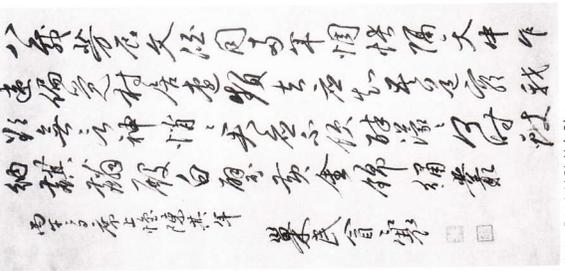
沈周「歲暮松泉圖」



沈周「野水弄村圖」



黃慎「鍾馗圖」



昌碩「行書禮陳其年詩」



張璠「梅花源圖」



張璠「行書聽琴篇」

今年は日中国交正常化20周年の年にあたります。本展はそれを記念して、六朝以来の古都南京にあり、中国で最も古い美術館の一つである江蘇美術館所蔵の書画の中から、明清時代の書画の精品99点を陳列するものです。

明清時代、政治の中心は北の北京に置かれてきましたが、経済の中心は南方にありました。そして、特に現在の江蘇省一带はその豊かな経済力を背景として、優れた文化の中心となつたのです。絵画の世界においては、明代中葉の蘇州に沈周、文徵明がでて、優れた文人画を誕生させ、董其昌により理論化され、清初の四王に継承され正統派として大きな力を持ちました。また、明清初の混乱期には、揚州、南京、松江などにそれぞれの都市の経済力を背景とする独自の画風が生まれてもいます。清代中葉の乾隆年間には、揚州に鄭燮、李鱣らの揚州八怪と称される画家がでて、墨竹や人物、花卉などに独特の風格を持つ作品を残しました。更に、清末には、阿片戦争以後開港地となった上海を中心として、虚谷、呉昌碩らが活躍し、今日の国画と呼ばれる中国絵画の基礎を確立しました。また、書においては、明代中葉の穏やかな書風から、明清初には王鐸や張璠に見られる個性溢れる書風に変わり、清代には金石碑文の学問的研究を背景に何紹基や楊岷などの優れた書家が輩出します。

本展により、日本の書画にも大きな影響を与えた明清の書画藝術の奥深い美を堪能できるものと思います。

●講演会

- 4月11日[土]午後2時～
「絵画に見る中国の茶道」
奈良大学教授 古原 宏伸氏
- 5月2日[土]午後2時～
「揚州八怪とその周辺」
京都大学人文科学研究所助教授 曾布川 寛氏

●美術映画会 (ビデオ)

- 4月19日[日]午後2時～
「杜十娘」(中国映画)
- 5月3日[日]午後2時～
「杜十娘」(中国映画)

●美術相談

- 4月26日[日]午後2時～4時
遠藤原三(洋画家)、畑農照雄(版画家)
- 5月17日[日]午後2時～4時
磯村敏之(洋画家)、荒井朝吉(日本画家)

